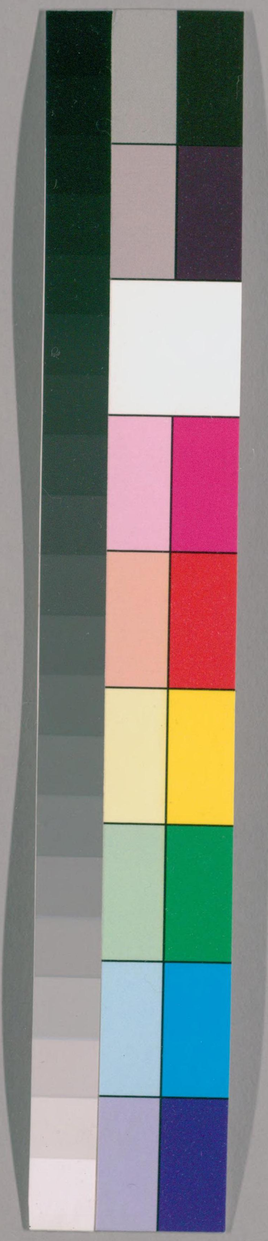


国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用

萬葉集卷第九

長二十三首
短百廿五首
旋頭歌一首
合百四十九首

雜謌

泊瀬朝倉宮御宇天皇御製歌一首

崗本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首 仲

大寶元年辛丑冬十月幸紀伊國時歌十三首

後人歌三首 仲

獻忍壁皇子歌一首 天武第九皇子景雲二年五月丙戌薨

詠仙人形

857-47
帝國圖書館
國立國会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

獻舍人皇子歌二首
泉河邊間人宿禰作歌二
鷺坂作歌一首
名木河作歌二首
高島作歌二首
紀伊國作歌二首
鷺坂作歌一首
泉河作歌一首

名木河作歌三首
宇治河作歌二首
獻弓削皇子歌三首
獻舍人皇子歌二首
舍人皇子御歌一首
路鳥(鷺宮)坂作歌一首
泉河邊作歌一首
獻弓削皇子歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

柿本朝臣人麻呂歌集謌二首

登筑波山詠月一首 歌脫至下又如此

幸芳野離宮時歌二首

槻本歌一首

山上歌一首

春日歌一首

高市歌一首

春日藏歌一首

元仁歌一首 三宅

絹歌一首

島足歌一首

麿歌一首

丹比真人歌一首

和歌一首

石川卿歌一首

宇合卿歌三首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

碁師歌二首

小辨歌一首

伊保麿歌一首

式部大倭(オホヤマトカ)歌一首 芳野作仲

兵部川原(ツハモノヘカハラ)歌一首

詠上総末珠名娘子(カミツフサノスエノマナノラトメヲ)一首 歌乎

詠水江浦島子(ミヅノエノウラシマノコヲ)一首 歌乎 并短歌

見河内大橋獨去娘子(カフチノオホハシヒトリユクラトメヲ)歌一首 并短歌

見武藏小埼沼鴨(ムサシノヲサキノイケノカモヲ)作歌一首

娚賀郡曝井(サヌキノコホリ)歌一首

手綱濱(タツナノハマ)歌一首

春三月諸卿大夫等下難波(ハルノミツキニモロモロノマチキミタチノナニハニクダレル)時歌二首 并短歌

難波經宿明日還來之(ナニハニヤドリアケノヒカヘリクルトキノ)歌一首

撿税使(イマシ)大伴卿登筑波山(ツクハヤマニノボレル)時歌一首 并短歌

詠霍公鳥(ホトトギスヲ)詞一首 并短歌 仲

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

登筑波山歌一首并短歌
登筑波嶺爲嬥歌會日作歌一首并短歌
詠鳴鹿歌一首并短歌
沙彌女王歌一首
七夕歌一首并短歌
相聞
挽田向宿禰退筑紫國時歌一首
抜氣大首任筑紫時娶豊前國娘子紗兒作

歌三首
大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首
大神大夫任筑紫國時阿倍倍大夫作歌一首
獻弓削皇子歌一首
獻舍人皇子歌二首
石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首
藤井連遷任上京時娘子贈歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

藤井連和歌一首
鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌
與妻歌一首
妻和歌一首
贈入唐使歌一首
神龜五年戊辰秋八月歌一首并短歌
天平元年己丑冬十二月歌一首并短歌
天平五年癸酉遣唐使船發難波入海之時親
母贈子歌一首并短歌
思娘子作歌一首并短歌
挽歌
宇治若郎子宮所歌一首
紀伊國作歌四首
過足柄坂見死人作歌一首并短歌
過葦屋處女墓時作歌一首并短歌
哀弟死去作歌一首并短歌

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

詠勝鹿眞間娘子哥一首并短歌

見菟原處女墓歌一首并短歌

雜歌

泊瀨朝倉宮御宇大泊瀨幼武天皇御製歌

一首

暮去者小椋山爾臥鹿之今夜者不鳴寐家良霜

右或本云岡本天皇御製不審正因以累載

岡本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

新古歌 コニ入ラズ

十二秋九月トアルハ紀伊国ニ御幸ノ遠ミアリ御幸ハ今十月トアルハ已ニ紀伊ニイタリ給ヒテ後ノ事ニヤ紀九月丁亥天王幸紀伊国ト有テ太上天王ノ御幸不載カ但印本脱誤多シ一ニ依テ改ムヘシ又天上ノ二字ヲ脱セル乎

爲妹吾玉拾奥邊有玉縁持來奥津白浪
アサキリニ ヌレニ勿レ コロモホサスレテ ヒトリヤ キミカ ヤマヂ コユラム

朝霧爾沾爾之衣不干而一哉君之山道將越
紀伊国ニ有テ太上天皇ヲ思ヒ奉リテ作ル歌ト云ヘリ

右二首作者未詳

大寶元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸紀伊國時歌十三首

文武五年ニ當ル 持統宮 文武宮

爲妹我王求於伎邊有白玉依來於岐都白浪
イモカタメワレタマモトムト 諸紀ニ多ク所ニヨメリ キヘ ナルシラタマヨセコオキツ シラナミ

右一首上見既畢但歌辭小換年代相違因以累載
文武天皇作者不知ノ文ニ太上天皇トセルハ誤ヘユニ入キ手既見上ゲリ

白嶺ハシラネノ誤ヘリ奥ノ方ニシラネアリト云ヘル誤ヘ

シラサ 嶺阿 サキノアリ 御幸ラーヘ

白嶺者幸在待大船爾真楫繁賀又將顧
カヂレバヌキテタカヘリミム

朝開榜出而我者湯羅前釣爲海人乎見變將來
朝ホラケノ不可說朝ヒラキヘ右說ヘ

三名部乃浦塩莫滿鹿島在釣爲海人乎見變
天智ノ皇女ヲミナベト申ヒカメトリ玉フ乎 紀伊国ニモ海人部ト云処アリ

來六
アサビラキコギイテヽワレハ ユラノサキツリスル アヘヲミテカヘリコ

朝開榜出而我者湯羅前釣爲海人乎見變將
七廿

來
ユラノサキシホヒニケラシ タノサキツリスルアヘヲミテカヘリコ

湯羅乃前塩乾爾祁良志白神之礒浦箕乎敢而榜動
第一第十三モ有箕ハラヒテ如クマハリヌル所ヲ云 コギトヨム

黒牛方塩干乃浦乎紅玉裾須蘇延往者誰妻
七廿下世二 數黒面白 クロヌカタシホヒノウラヲ クレナヰノタマモスソビキユクハタガツマ

カサナキノ　ハニノ　シラナミイタツラニコソ、ニヨリクル　三ル　ヒトナシニ

風莫乃濱之白浪徒於斯依久流見人無

紀ノ

一云於斯依來藻

右一首山上臣憶良類聚歌林曰長忌寸意

吉麻呂應詔作此歌一首

ワガセコガツカヒトイテタヘコム　十三世　不審

我背兒我使將來與跡山立之松原乎今日

カ　スキナム　イテタチノヨミテ名所ニスキヤ如何

香過南

フチシロノ　ミサカヲコユトシロタヘノ　檜ノ中

藤白之三坂乎越跡白栲之

ワカコロモテ

我衣手者所沾香

モ

裳

摺ノ凡ソ記曰息長帶日女命欲平新羅下坐之時祷於忌神尓即有驗故名忌神坂又真坂ニテ高平坂ナホ心石坂比賣命故曰ふ乃鎮奉其神於紀伊国管川藤代之峯

セ　ノヤマニ　モミチ　トユクヒトモカヘリミカサノ

勢能山爾黄葉常敷神岳之山黄葉者今日散

歌ノ如クロニシカトヨムヨシアレトモ山ノ神ナレトモ云ヒカツテ岳ヲ略メ名ヘシ三日山モ三台山トモニヨリアトハ成ヘシ

ラム　ヤマト　ニハキヨエモユクカ　オホガハノ　カリシキイホリセリト

濫

跡行ノワビシサ妻ノ本ヘキコユクカ

ハ

者

山跡庭聞往歟大我野之竹葉苅敷廬爲有跡

キノクニノ　ムカシユミヲノ　カブラヒキテシカトリナヒクサカノヘニ　紀伊国　ニハ雄山ノ麓守山持ラヘトイヘリ師説手束杖尺手束弓尺眉

木國之昔弓雄之響矢用鹿取靡坂上爾曾妾

ナミニ神中

留

キノクニニ　トハニヤス　カヨハム　ツモコソツマニヨリコ　叶助子

城國爾不止將往來妻社妻依來西尼妻常言

ツマタマフニ　モ　ツマヨコセナカ

長柄

一云嬬賜爾毛嬬云長柄

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

右一首或云坂上忌寸人長作

後人歌二首

朝裳吉木方往君我信土山越濫今日曽雨莫零根

後居而吾戀居者白雲棚引山乎今日香越濫

獻忍壁皇子歌一首

常之陪爾夏冬往哉裘扇不放山住人

獻舎人皇子歌二首

妹手取而引與治栲手折吾刺可花開鴨

河瀬激乎見者玉藻鴨散亂而在此河常鴨

春山者散過去鞆三和山者来含君待勝爾

泉河邊間人宿禰作歌二首

泉河邊間人宿禰作歌一首

鷺坂山松影宿而往奈夜毛深往乎

鷺坂作歌二首

鳥鷺坂山松影宿而往奈夜毛深往乎

名木河作歌二首

アラリホスヒトモ ノレヤ モ ヌレキヌヲ イヘニハ ヤ ラチ ナ タヒノシルシニ
燃千人毋在八方沾衣乎家者夜良奈轟印
アリソ ベニツキテ (アマヤモヘアヤト歎ク詞ニハアラズアヤニカラビトハ コグアヘカラビトハヌグレバ コヒシクアルナリ)
在衣邊著而撈尼杏人濱過者戀布在奈利
(芦原砂辺ニ) (漁人) (下ニテギノ河辺トシル是ニヤ) (名残オシクヘ)

高島作歌二首

タカシマノ アト カハナミハ サワゲトモワレハ イヘキモノメビヲカ ナシ
高島之阿渡河波者驟鞆吾者家思宿加奈之
(三竹也) (高嶋ハ近江ニテ尼前後紀ノ名所ナリ紀伊ニモアリ高嶋アルヘシ 川宮) (五百入キ イオリ)
彌 重好稚王集雜 紀國ヲウマクヨメルヤウニ聞ユレドモ高弁上人ワルクサシテ ヨナカヲサシテ テルツキノ
久ビモチレバ 公分ラ高弁上人 紀國ヲウマクヨメルヤウニ聞ユレドモ
客在者三更刺而照月高島山隱惜毛
夜半ラサシテ

紀伊國作歌二首

ワガコフルイモニアハサズ タマノウラニ ヒロモカタシキヒトリカモ ヌム
吾戀妹相佐受玉浦毋衣片敷一鴨將寐
(十五ノ十二) (十五ノ十) 不令遇 十ノ卅九 十一ノ廿二

タマクシゲアケテクラシレキアスラヨ ヲ
玉匣開巻惜怪夜矣袖可禮而一鴨將寐
(三ノ六十三ノ) (甲仲) (コロモデカレテ) (宿宦) (離ノ字ヲ妹カキラハナテテ) (歌ノ詞条ニ不見)
姉ノミレ時ハ上ニ置テ可見

鷺坂作歌一首

シラカシノ ヒレノ サギサカヤマノシラツヽジ リレニホハデイモニ
白心乍見巾領鷺坂山白管自吾爾尼保波氐妹爾
(子是ヲ類同ノ尼宦本)

示

泉河作歌一首 春作歌

イモカトイヒシヒカハノ トコナメニ ユキノコリリテタツユカモ
妹門入出見河乃床奈馬爾三雪遺未冬鴨
(常滑ノ水中ニ有石ノ水ノニリノレシ付故ニ常テメリ) (水ノ味ノ雪ノ如クナヲ云)

名木河作歌三首

コロモデノ ナキノカハベヲ ハルサメニワレタチヌラト イヘオモフラム
衣手乃名木之河邊乎春雨吾立沾等家念良
(人丘時衣手ヲ用ル故ニ) (沾)

相楽郡水泉 並 美

曽毋集 タクヒレサキ 摩 ツクヒムラ

新古恋 三人不知

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ムカ　我ハ此ヤ何辺ニ衣チラ征ヌアメ立ヲ古里人ノサハシラテ春雨ノシケク降ル三笠ノ山ニコソ立ヌルニアメト思ヒテ

武可　イヘビトノツカヒナルラシハルサメノヨグレ札幣

家人使在之春雨乃與久列杼　吾乎沽念者

妻　キミガメヨ　イヘビト　アレヤモ　イヘビトノハルサメスラヲ　ツカヒニ　スル

燃千人毋在八方家人春雨須良乎閒使爾爲

夫婦自使又真使ヲ

巨椋乃入江　神名帳ニ紀伊郡大椋神社　久世郡巨椋神社ニヌ

仲云宇治河ノ南久世郡巨椋ノ俗ヲグラト云ヒクラ村アリヲグラ堤トモ云ヒ此堤ハ秀吉始テキヅク　奈良路ヨリ東ニヨリテクルモ皆ヨリクル有ベシ

小大君集ニクノモリノ紅葉ノ色ノカトアルオクラノ杜ノオホツカナニタル近名寄ニククノ杜是ヨルニ小大君ニモト此哥有ケルカ上句脱ケルト云ヒ宇治殿ニ家集宮ノ字治殿ニオクラト云ケルニヤ

ムカレヨリ假テ井ヲモヒニテ女房サハセヒテオグラニモサセヒテソヨリヤカテカヘラセヒテ京ヨリオクラケル　春ユハ花都ヘ歸ルモオクラノ里ハカスミ御迫シミスモル人ノ心モユカリ此里ノ衣トキハナラテ

ノ　ナルナヘニアヘグモカケルカリニアヘルカモ

金風山吹瀬乃響苗天雲翔雁鴈

獻弓削皇子歌三首

伏見　今ノ伏見ヘ

伏見何田井爾

紀伊郡　ガタ井ニ

久人ト云ヒ不可用ビトノ

メ

孟八ノ世七

刃目人乃

夫婦自使又真使ヲ

ツカヒニ　スル

ワレラ　ヌラス　ヒトモヘハ　ラ仲

吾乎沽念者

キミガメヨ　イヘビト　アレヤモ　イヘビトノハルサメスラヲ　ツカヒニ　スル

妹爲千人毋在八方家人春雨須良乎閒使爾爲

夫婦自使又真使ヲ

巨椋乃入江　神名帳ニ紀伊郡大椋神社　久世郡巨椋神社ニヌ

仲云宇治河ノ南久世郡巨椋ノ俗ヲグラト云ヒクラ村アリヲグラ堤トモ云ヒ此堤ハ秀吉始テキヅク　奈良路ヨリ東ニヨリテクルモ皆ヨリクル有ベシ

小大君集ニクノモリノ紅葉ノ色ノカトアルオクラノ杜ノオホツカナニタル近名寄ニククノ杜是ヨルニ小大君ニモト此哥有ケルカ上句脱ケルト云ヒ宇治殿ニ家集宮ノ字治殿ニオクラト云ケルニヤ

ムカレヨリ假テ井ヲモヒニテ女房サハセヒテオグラニモサセヒテソヨリヤカテカヘラセヒテ京ヨリオクラケル　春ユハ花都ヘ歸ルモオクラノ里ハカスミ御迫シミスモル人ノ心モユカリ此里ノ衣トキハナラテ

アキカゼノヤマヅキノセ

金風山吹瀬乃響苗天雲翔雁鴈

獻弓削皇子歌三首

雲隱鴈鳴時秋山黃葉庄待時者雖過

キリ深キキリ深ケ人必而トル

タヲモトメタルトツヾク

獻舍人皇子歌三首

多武峯　タルタヲ　ヤマギリニゲキカモホリカハノ世ニナミサワキケル

神カ

梶手折多武山霧茂鴨細川瀬波驟祁留

フユヤナハスヘヲコヒテウエシキノミニナルトキヲカタマツワレソ

冬木成春部戀而殖木實成時庄待吾等叙

舍人皇子御歌一首

衣手　袖ノ名　ヌバタマノヨ　ギリハタチヌコロモデノタカヤノウヘニタナビクマデニ

黒玉夜霧立衣手高屋於霏霧麻天爾

大和城上ノ一巻ニ長皇子ノタカヤハトヨマセ給フ処ヘ

二夜有ツルヽ

之宿

當集ノ外ニ誤テ載タリ　右衛士

赤明紀云於由良須冠以周垣四身山名此云大路

夫木ニハヨノ山ヲキノセノ岩枕吉野山ニモ山吹ヲ有ニヤ

ムカ　我ハ此ヤ何辺ニ衣モラ伝ヌラン立ヨ右里人ノサハシウテ春雨ノシケク降ルニ立ヌル・ラメト思ヒオコサヒカト

武可

イヘビトノツカヒナルラシハルサメノ　ヨグレ

家人使在之春雨乃與久列

（妻）

杼吾乎沽念者

（ヲ仲）

アヲリホスヒトモアレヤモ　イヘビトノハルサメノ　ツカヒニスル

焱千人毋在八方家人春雨須良乎間使爾為

（旅ナルハアリハセヌヘ）　（夫婦自使又真使モ）

宇治河作歌二首

マホクラノ　イリエ　ヒヾクナリイメ

（費人ト云ル不可用）

巨椋乃入江響奈理射目人乃伏見何田井爾

（六西ハ世七）　（下ノ原ニワタル）　（今ノ伏見ヘ）　（紀伊郡）

鴈渡良之

カリワタルラシ

秋風山吹瀬乃響苗天雲翔鴈音相鴨

アキカゼノヤマブキノセノ　ナルナヘニアマグモカケルカリニアヘルカモ

（六帖）　（雲ヒノ二追ヘ）

獻弓削皇子歌三首

サヨナカトヨハフケヌラシカリカネノキコユルソラニツキワタルミユ

夜中等夜者深去良斯霜乃降衣寒成鴈鳴乎聞

（ヨノフケユケハ）　（ヨノフケユケハ）　（ヨノフケユケハ）

雲隠鴈鳴時秋山黄葉片待時者雖過

（キリ深キキリ深ケ）　（皇子ノ御カケヲタノミ人ナトヨメルモ）

獻舍人皇子歌三首

（多武峯ヘ）

妹當茂荊音夕霧來鳴而過

イモカトノタリヲガキカリカネユフギリニキナキテスギヌ

（多武峯ノヤマニギリニキカモホリカハノセニナミサワキナル）

（トモシ乾ニテ）

秋手折多武山霧茂鴨細川瀬波驟祁留

アキタヲリフカミヤマノキリシケミカモホソカハノセニナミサワクナル

（カスカヘ）

冬木成春部戀而殖木實成時斤待吾等叙

フユコモリハルベヲコヒテウヱシキノミニナルトキヲカタマツワレソ

舍人皇子御歌一首

（衣手ハ衣ノ名）

ヌバタマノヨギリノタチワタルコロモデノタカヤノウヘニタナビクマデニ

黒玉夜霧立衣手高屋於霏霺麻天爾

（大和城上ノ一巻ニ長皇子ノ父カヤノウヘヨリ給フ処ヘ）

新勅雅四ヨミ和

拾雑秋　人丸

三ノ旨天子南面ヲケヾルニアラザルヲ

卅二公ムキ吹ヨマ神名帳

鷺坂作歌一首

山代乃（ヤマシロノ）　鷺坂（サギサカ）　神代者（カミヨヽ）　張（ハリツヽ）　秋者（アキハ）　散来（チリケリ）

泉河邊作歌一首

春草馬咋山（ハルクサラウヽクヒヤマヲ）　自越来（コエク）　奈流鷹使者（ナルタカリノツカヒハ）　宿過奈利（ヤドリスグヽナリ）

（秋ノ使ニハナシテ）

獻弓削皇子歌一首

御食向（ミケムカフ）　南淵山之（ミナブチヤマノ）　巌者（イハホニハ）　落波太列（チルナミタレ）　可削遺有（カ）　柿（カキノコセル）

吾妹兒之（ワギモコガ）　赤裳泥塗而（アカモヒヅチテ）　殖之田乎（ウエシタヲ）　苅薦（カリコモ）　藏倉無（ナシ）

右柿本朝臣人麻呂之歌集所出

右柿本朝臣人麻呂之歌集所出

百傳之（モヽツタノ）　八十之島廻乎（ヤソノシマミヲ）　榜雖来（コギクレド）　粟小島者（アハチノヽシマハ）　雖見（ミレド）

（紀伊アリテ粟小嶋ト次第ハアラス卅二波間ヨリ雲井ニミユルアハ嶋ノトヨメル同所ヘ卅五ノ下ハ周防ヘ）

不足可聞（アカヌカモ）

右二首或云柿本朝臣人麻呂作

登筑波山詠月一首（歌脱）

雨（アマ）ノハラクモナキヨヒニ（ヌバタマノ）　夜渡月（ヨワタルツキノ）　伊良（イラヽ）　苦（クヲ）　怪（アヤシモ）

滝上乃三船山（タキノウヘノミフネヤマ）　従秋津邊（アキツベニ）　来鳴（キナキワタルハ）　誰喚兒鳥（タレヨブコトリ）

幸芳野離宮時歌二首

雲原（クモハラ）　無夕爾烏玉乃（ナキユフベニヌバタマノ）　宵度月乃（ヨワタルツキノ）　入巻惜毛（イラヽクヲシモ）

新古欽上　人丸誤

豊前ノ鄽泉回大木廿九三尺餘トアリ

之濱（ノハマ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

オチタキチナカルヽミツノイハニフレヨドミユ
落多藝知流水之磐觸與杼賞類與杼爾月影所見

右三首作者未詳

槻本歌一首

サヾナミノヒラヤマカゼノウミフケハツリスルアヽノソデカヘルミユ
樂波之平山風之海吹者釣爲海人之袂變所見

山上憶良歌一首

ミノハヽミツノキノタムケグサイクヨニデニカエラナ
白那弥之濱松之木乃手酬草幾世左右二箇賀

此哥弟一三幸于紀伊国時河嶋皇子御作哥トイヒ哥後ノ注或云山上憶良作トアリ今ノ次所ト表裡セリ哥ノ詞モ所カヘリ

新勅並一撰中長乃落滝津甲セノモ岩ニテシヘニシヨトム涙トモカナ

此哥弟一巻二百新古雑中阿嶋皇子

新古雑下ヨミ人知

六帖ニ少ヤウニテ仲足利佐思代私

トレハヘヌラム

年薄經濫

乃去良跡

右一首或云河島皇子御作歌

春日藏首老ナヘシ

春日歌一首

ミツカハノフチセモオチヌ宮サデ三河之淵瀬物不落左提刺爾衣手湖干兒波

ナレニ近江國賀郡

無爾

跡ノ思テコキ出ル舟ノアトノミナラニトマリヌルカトヽ下サハニアトモヒメテトヽ云伺リ

高市歌一首

高市連黒人ナルヘシ

コキユクフチハタカレニアレトリノ佐脱ハ足利思代行舟薄高島之足速之水門爾極

アトノモヒテ

ケムカモ

大納言師頼

堀百アレ水ニ錦オリカケ田上ノアトノ川水ノ葉ナレ之

里上ハ栗太郡陳志賀郡南北遠

監

春日藏歌一首

テル ツキヲ クモナ カクシソ ニカケニ クカフ子ハテム
照月遠雲莫隱島陰爾吾舩將極留不知毛

右一首或本云小辯作也或記姓氏無記

次載凡如此類下皆效焉

名字或俾名號不俾姓氏然依古記便以

元仁歌三首 不詳

モトヒト
ウナヘテ ウナムレコエキ ナフ ミ ツルヨレノ、カハヲ イツ
馬屯而打集越来今日見鶴芳野之川乎何時

カヘリミム
將顧

クルヒクモクレユクヒ カモヨシノ ガハヨヒカハラ ヲミレド アカナクニ
辛苦晚去日鴨吉野川清河原乎雖見不飽君

ヨシノ カハカハナミタカミ タキノウラヨ ミズカ ナリナムコヒ
吉野川河浪高見多寸能浦乎不視歟成省戀

ニキミ 歟ノ欠ニ 莫假 木假
布真國 ヨシノ國ノ女ノ名 孫姫式 山家集 恋ニキマクニハヨシノヲニ度イヘリカノ如シ

氏子
絹歌一首

カハヅナクムツダノカハノカハヤギノ子モゴロミレド アカヌ
河蝦鳴六田乃河之川楊乃根毛居侶雖見不飽

ヌ ナシカモ 今ノ人年歟ト云処
君鴨

一親王大臣ナトノ御供ニテカクハヨセテヨメル成ヘシ 三之ハ寄物恋ノ部ニ入ヘキ歌ナリ

島足歌一首

ミヤノホリコ シクモシロクヨシノノカハオトノサヤケサ ミルニトモシク
宮乃堀子敷布毛白吉野川音清左見二友敷

珠

麻呂歌一首

古之賢人之遊兼吉野川原雖見不飽鴨
イニシヘノ サカシキヒトノ アソビケム ヨシノノ カハラ ミレド アカヌ カモ

右柿本朝臣人麻呂之歌集出（宮本元之）

丹比眞人歌一首（屋主乎乙ノ名子）

難波方塩干爾出而玉藻苅海未通等汝名告（女名乞妻）
ナニハガタ シホヒニイデテ タマモカル アマトハヌラシ ナガナ ノラセ

左注

和歌一首（海底ヲアマトヲミマセルヘ）

朝入爲流人跡乎見座草枕容去人爾妻者不（客 ツマハニカセ）
アサリスル ヒトトヲ助ミ ニセクサノ タビユクヒトヲ ツマニハ（ヲヌノ古ノ妻ヲ及ヌト）レカ

敷（私）

石河卿歌一首

名草目而今夜者寐南從明日波戀鴨行武從（三之ヲ悪ツヲ乙行ニ コヒカモユカム ヨリ）
ナグサメテ コヨヒハ子ナムアスヨリ アスカテハ コユハヨリ

此間別者（古郷ヲ思ニ疲ムメミル）
ココワカレ ユケハ

旅ノ宿リニテナキル人ニ別ヲオシミテヨメル）

宇合卿歌三首（雲三丹後ト乙ド宇合行ル名コナニ西海道ノ節度使ナ）

曉之夢所見乍梶島乃石越浪乃敷弖志所念（色ヲ助ノ誤）
アカツキノ ユメニミエツツ カヂシマノ イソコスナミノ シキテシノホユ

山品之石田乃小野之母蘇原見乍哉公之山（柾）
ヤマシナノ イハタノヲノノ ハラミツツヤ キミカヤマヂヲ

遠處ニユラム（雷神社久世郡ニ有ト延喜式ニ見ヘタリ乙ハ山科ハ先ハ宇治郡ナト久世郡ニモカヽリテソコニ
道越良武（石田神社有ヤ例ヲイハヽナハリシヲ日本紀ニハ兎田郡ト云延喜式ニハ城上郡ト云カ如シ又
和名ニ宇治郡ニ小野アリ）

同雜下
後撰途ヨリ淀ニアリテアフミノ森。淀ハ
紀伊郡ニアリ森ハ久世郡ヘ又式ニモ訓郡ニ淀ノ神社アリカヤウニ多シ

ヤマシナノ イハタノモリニ フミコエハ ケタシワギモ コエタニアハムカモ

山科乃石田社爾布靡越者蓋吾妹爾直相鴨 十三ノ三 千向ノ為ニ 杜家本

才四三美名擬越トヨメル人カ

碁師歌二首

キモヤマニカスミタナビキサヨフケテワカフネノウヘニ月渡ルミユ 旋頭歌

三代実録十三従五位上行肥後守伊勢朝臣夏井為云夏井果能雖藝九善而無碁徒宿

孫少勝雄以善奕碁延喜之日備侍於使負収碁師抱朴子云囲碁者

世謂之碁聖故殷子郷馬 総明有碁聖之名者也 美濃ノ絵ニ碁ヲウツ男ノ女ノ

ヲ見テヨメル歌カ

母山霞棚引左夜深而吾舟将泊等萬里不知

母山ハ美濃ニアリ神代紀ノ喪山ト云是乎名ノイマくシケヤケヲ山ト云ニヤ又月吉権現ノ御哥トテ彼母山ヤラヒ

モ 八雲ニ美濃ノ下リ神代紀ノ喪山ト云是乎名ノイマくシケヤケヲ山ト云ニヤ又月吉権現ノ御哥トテ彼母山ヤラヒ

ヲノ称ノ三山若ハ此モ寒シトフ人モナシ是ハアフミナレハ美濃近江近所ノヨセアリテ云乎此モ山神代紀ニモ非乎

母

思乍雖来来不勝而水尾崎真長乃浦乎又顧

二所共ニ近江高嶋郡ニ

津

小辯歌一首

タカシマノアトノミナトヨコキスキテスガウライマカコグラム 香良

高島之足利湖乎榜過而盬津菅浦今者将榜 近江輿地志略ニ高島郡辻井郡辻谷宮浦七内郡ニシ

伊保麻呂歌一首

ワカヤトニヘノガハラノイソノウラニカタモ 河モ地モヨメリ 内

吾畳三重乃河原之礒裏爾如是鴨跡蹈鴨河蝦 集

ヨキ人台宣ヲ并ニケカクノクルシ

些二重ノ原ヲ人雲ニ石見ト註セサセ玉ヘリ伊勢三重郡ノ

可物

式部大倭芳野作歌一首

ヤマタカミ 峯ニオホクモアラム トアカヌカモ

山高見白木綿花爾落多藝津夏身之河門雖見不飽香聞

兵部川原歌一首

オホタキヨ スキテナツミニソヒテ井 君

大瀧乎過而夏箕爾傍立而清河瀬見河明沙 何

キヨキカハセヲミルカサヤケサ

大滝吉野ヘ三代実録清和天皇幸ノ諸国順礼ノ処ニアラス

礼部特牲見後君ハニアラス重席ノ

母山日本紀ニ美濃国益見川ノ上ニアリトアルヘシ和銅六年諸国郡ツノ名ニ好字ヲ用ヨトアヨリ文字如此乎

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

詠上総末珠名娘子一首并短歌　作者未詳

水長鳥安房爾繼有梓弓末乃珠名者胸別之
廣吾妹腰細之須輕娘子之其姿之端正爾如
花咲而立者玉桙乃道行人者已行道者不去
而不召爾門至奴指並隣之君者預已妻離而
不乞爾鏡左倍奉。人乃皆如是迷有者容艶縁
而曽妹者多波禮豆有家留

反歌

金門爾之人乃来立者夜中母身者田菜不知

曽相来

詠曽我川水江之蘆屋処女并短歌　作者未詳

葦屋之菟原処女之八歯之上爾　廻有春花之
香未通女者　時者過而　夏草之　念之萎而
蒸衾之　隔而夜者　明易　来喚鳥之　音毛不聞
朝戸乎　開而出見者　松根爾　懸有藤浪　之
風乎　疾跡　靡有　見人乃　語事乎　聞都
丈夫者　聞而悔　智男雄母　聞而恨　血沼壮
子之　妹尓之有者

反歌

水江之浦嶋子　墨江

住吉者　昔老人乙女　住吉郡　朴津乃郷　今乃　生野邑　東南五六町　是其地
勢遠限長狭　恰如谷　故　朴津谷　入　浦嶋太郎　此処　於　釣　鯛　其舟　繋　榜　未　往昔　海水朴津谷　入　浦嶋太郎　此処　於　釣　鯛　其舟　繋　榜　未　近世　宇　彼谷　二　了　又　今　津守寺　北辺　蔵　太郎住　処　処　人　多　又　水　江　浦嶋子　墓　有　所　念　水　江　之　浦島　児　之
住吉　本社　去　乙　十四五町　東　野　二　旧墓　有　耕　人　皆　知　古老　伝　云　是　浦嶋　墓　也　子　哥　二　墨江　之岸　爾　出居　而　釣　船　之　得

詠上総末珠名娘子一首 并短歌

作者未詳 水戸

水長鳥安房爾繼有梓弓末乃珠名者胸別之
廣吾妹腰細之須輕娘子之其姿之端正爾如
花咲而立者玉桙乃道行人者已行道者不去
而不召爾門至奴指並隣之君者預已妻離而
而曾妹者多波禮豆有家留

反歌

金門爾之人乃来立者夜中母身者田菜不知

詠水江浦島子一首 并短歌

春日之霞時爾墨吉之岸爾出居而釣船之得
乎良布見者古之事曾所念水江之浦島兒之
堅魚釣鯛釣矜及七日家爾毛不来而海界乎
過而榜行爾海若神之女爾邂逅爾伊許藝趨相
許良比言成之賀婆加吉結常代爾至海若神

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ノ　ミヤノ　ナカノヘノ　タヘナルトノニ　タツサハリフタリイリ井　テ　オイノ春孔ヲ点ニ同
之宮乃内隅之細有殿爾携二人入居而老目
セ　ズレニモセズシテ　ナガキヨ　ニ　アリケル　モノヲ　ヨノナカノ　レレタル
不爲死不爲而永世爾有家留物乎世間之憂
ヒトノ　ワギモコ　ニ　ツケテ　カタラク　ニハラクハ　イヘニカヘリテ　チ、ハ、カノ
人之吾妹兒爾告而語久須臾者家歸而父母
ニ　コトモ　ツゲラ　ヒ　（今自行テ家ヘ知ヘル如ク早ク云ヒ告ヨトワレハ　キ　ナムト　イヒケレハ
爾事毛告良比如明日吾者来南登言家禮婆
イモガ　イラヘク　トコヨ　ベ　ニ　タカヘリキテ　ケノゴトアハムト　計ア
妹之咎久常世邊爾復變来而如今將相跡奈
ラ　ハ　コノハコヨヒラクナ　ユメト　ソバクコ　ニ　イマカタメ　レ　コトヲ
良婆此筥開勿勤常曽巳良久爾堅目師事乎
スミノエニ　カヘリキタリテ　イヘミレド　イヘモ　カチテ　サトミレド　サト
墨吉爾還来而家見跡家毛見金手里見跡里
モ　ミ　カチテ　アヤシメト　匏ソ　ソコニテ思フアラト云心　ニ　キモハク　イ
毛見金手恠常所許爾念久從家出而三歳之

ホトニ　カキモ　ナク　イ人　モウセメ　ヤト　（從ニ東返ハコヨ　ヒラキテ　三　テ　ハ
間爾墻毛無家滅目八跡（詞）此筥乎開而見手齒
モトノ　ゴトイヘハ　アラム　トタニクヒテスコシヒラクニ　ニラクモノ　ハコヨリ
如本家者將有登玉筥小披爾白雲之自箱
イテテ、　トコヨ　ベニタナビキヌレハ　タチハシリサケビソデアリコロ（イニロビアレズ伊勢物
出而常世邊棚引法者立走叫袖振反側足受
リ　レ　ツ、　タチニネコ、ロモユカヌ　ワカカリレ　カ
利四管頻情消失奴若有之皮毛皺奴黒有之
カミモ　レラケヌ　ユナユメ　イキカヘラムヘ　タエテ　ノチツ世ニイノチ
髪毛白班奴由奈由奈波氣左倍絶而後遂壽
レニケル　ヲエノ　ニノコ　ガ　イヘドコヒミム
死祁流水江之浦島子之家地見

詠メヨリ云ヒ忘
又歌
トコヨ　ベニスムベキモノヲ　（心トハシテタイリ柄リカタミサヒ入ルヲ心トモ云ヒ
ツルギタチサ　ガ　ユメロカラキ　ソヤ　（心オモヒテデキ、原ヲサトヨ多倫
常世邊可住物乎劔刀已之心柄於曽也是
（神嶋ヲヨヒキノ也ハヒメ　（神嶋ヲヨヒス　君

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

見河内大橋獨去娘子歌一首 作者未詳

シナテルヤカタアスハ カハノ サ付字ニ ヌリノオホハシノ ウヘユ クレナヰノアカモ

級照片足羽河之左丹塗大橋之上從紅赤裳

スソ ビキヤニアヰモテヌレ波キヌキテタヽヒトリ イ発語ワタラスコハワカ

數十引山鹽用摺衣服而直獨伊渡爲兒者若

(延喜式民ノ下) クサノツヽカ メカレノミノ タヽリカヌラム トハニクノ ヤマキ

草乃夫香有良武。檀實之獨歟將宿問卷乃欲

ワキモカイヘノ シラナク (カシノ木ノ実ハヅした物)

我妹之家乃不知

シナテル 聖徳太子哥 古妻化 磨仙嶺 碧玉縁 於雁歯

反歌

ホトリニ 飛

大橋之頭爾家有者心悲久獨去兒爾屋戸借

モト 和名山城国葛野郡橋頭 野宮旨首ヒテルヤ乎世川アヤニ

申尾

霜乎掃等爾有斯

レモノ ハラフト ニアラシテ

前玉之小埼乃沼爾鴨曾翼霧己尾爾零置流

サキイ 故ニノ ソ サキノイケニ カモノ ハチギルオノガミ ニフリオケル

小埼沼鴨作歌一首 (前ダレノ霧ダキ)

伊豆記伊香保見河俊国ニテ弁ヒコノ那賀郡ナヘシ心ハ中ノ心ヘ

那賀郡曝井歌一首

ミツグリノ ナカニ ムカヘル サラシ井 ノ タエズカヨハムソコニツヽ

三栗乃中爾向有曝井之不絶將通彼所爾妻

(日本紀ガ遠神紀此集下廿八丁ニモ)

毛我 大木 納原 植僧正公朝 三ツルスノ中ニカニテムスヒアケムウラキ

武蔵下総ノ那賀手綱トツキヒハ是モ弁シナヘ 哥林苑哥合 素覚伝師 山カケヒワクニコノ井ノ井ヤモ

手綱濱歌一首

トホツニヨル タカニ アリセバ シラズトモ タヅナノハマノ タヅ子

遠妻四高爾有世婆不知十方手綱乃濱能尋

(古マミん妻) 中統ハタヽく妹ヵ待ちナトヨメレニ同旅痴ノアヲキテ待心

埼玉郡和名弁ノ国ノ下

談波 武蔵 那珂郡 常陸 那河郡 筑前日向有同名 但紀ニハ賀悪音

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

來名益

春三月諸卿大夫等下難波時歌二首 并短歌

白雲之 龍田山之 瀧上之 小鞍嶺爾 開乎爲流
櫻花者 山高風之 不息者 春雨之 繼而零者 最
末枝者 落過去祁利 下枝爾 遺有花者 須臾者
落莫亂 草枕 客去君之 及還來

反歌

吾去者 七日不過 龍田彦 勤此花乎 風莫吹

白雲乃 立田山乎 夕暁 雖打越去者 瀧上之 櫻
花者 開有者 落過祁里 含有者 可開繼 許智期
智乃花之 盛爾 雖不見 左右君之 三行者 今西
應有

反歌

難波經 宿明日 還來之 時歌一首 并短歌

瑕有者 魚津柴 比渡向 峯之 櫻花毛 折末思物
緒

難波經宿明日還來之時歌一首 并短歌

一夜之間ニ神化

嶋山乎射往廻流河副乃丘邊道從昨日已曽
（大和ヘヤマヲ イ發語ニキモトホル カハソヒノ メグレル ソカヘノミチニ キノフユソ）
吾越来牡鹿一夜耳宿有之柄二挙上之櫻花
（ワカコエコ シカ ヒトヨ ノミヤ 敷リシ カラニ 間心 ラノウヘノ サクラノハナヲ）
者瀧之瀬從落墮而流君之將見其日左右庭
（ハ・タキノ セ ニ キチ テ ナカレヌキミカ 天子 ミム ソノヒ マデニハ）
山下之風莫吹登打越而名二負有杜爾風祭
（ヤマオロシノ カセナ フキソトウチコエテ ナニ オヘル モリニ カサマツリ 社伸）
（龍田ノ社ヘ天武紀二八神由三ヘタリ延喜式龍田風神祭可考）
爲奈
（セナ ナハシト同シ）

反歌

射行相乃坂上之蹈本爾開乎爲流櫻安花乎今
（イユキアヒノ サカノ フモトニ サキヲ ル サクラノハナヲ 三廿）
見兒毛欲得
（ムコモガナモ 和訓ノ字如字 烏ヲアテヽ訓ス）

大伴檢税使自本紀従本紀ニ不見

檢税使大伴卿登筑波山時歌一首 并短歌
（依水戸藩本）

コロモデノヒタチノクニノ（應神ノ時ニアタリテノ名ナリ ミツノホリ ノ誤リ）
衣手常陸國二並筑波乃山乎欲見君來座登
（アッテキニ アセカ キナ ゲ 彼乎 子 ヤマヲ ラ ネクブキノホリノ ヤヘヲ キミニ）
熱爾汗可伎祭氣木根取嘯鳴登岑上乎君爾
（ミスレバ ヲノガミモ ユルセタマヘリメガ チハ ビタマヒテ トキト）
令見者男神毛許賜而時登
（ナククモ井テ アメフリツクバ子 ヲ キヨメテラニテトト 步カリ 給ヒ ノ）
無雲居雨零筑波嶺乎清照言借石國之眞保
（ラ ヲ ツハラカ テル廿六 ニメシタマヘバ ウレシミト ヒモノ 四十 トキテ イヘノゴトト 井ケ）
良乎委曲爾示賜者歡登紹之緒解而家如解
（テソ アラウチナビキハルミ ニ ミレヨリハ ナックサノ アレト ビ）
而曽遊打靡春見麻之從者夏草之茂者雖在
（ケフノ タノシサ）
今日之樂者

神名帳筑波山座二社

下廿七葉鹿嶋郡苏
野橋別大伴ノ哥可
悪見

景行紀ヤマト国ノハラ

鉄明紀沼モノビユ
ルヘ帯ニツカミテ

反歌

ナラノヒ ニ イカ、ヨハムツクハ 子ニムカレノヒトノ キケム ソノヒ モ

今日爾何如將及筑波嶺昔人之將來其日毛

詠霍公鳥二首 并短歌

ウクヒスノ カヒコ 邨仲 ナカニ ホト、ギス ヒトリウ 一云死 ニレテ サガチ、ニ ニ

鶯之生卵乃中爾霍公鳥獨所生而已父爾似

テ ハ ナカス サガハ、ニ テハ ナカス ウノ ハナノ サケル

而者不鳴巳母爾似而者不鳴宇能花乃開有

ノベ ヨリトビカヘリキ ナキトヨミレタヘハナノ 井 チラレ ヒ子モスニ

野邊從飛翻來鳴令響橘之花乎居令散終日

ナケト キ、ヨレ ヒヒハ 廿 ム トホクナ ユキソワカヤト ノ ハナタチハナニ

雖喧聞吉弊者將爲遐莫去吾屋戸之花橘爾

スミワタレトリ ナケ

住渡鳥 鳴

反歌

カキキラシ アメノフルヨ ヲ ホトヽキス ナキテ ユクナリアハレ メノトリ

掻霧之雨零夜乎霍公鳥鳴而去成恠怜其鳥

登筑波山歌一首 并短歌

クサマクラタヒノウレヘヲ ナ グサムルコトモ アラム トツクバ子 ニ

草枕客之憂乎名草漏事毛有武跡筑波嶺爾

ノホリテ ミレハ ヲ ハナタチル 擬波山ノ西在又号スソノ山井ト合 ニ カリカ子モ サヘタキ

登而見者尾花落師付之田井爾鴈泣毛寒來

ナキヌ ニヒバリノ 郡名 トバノ 新治郡鳥羽ノ湖水有レトバノアフミ アキカゼニ レラナミタチヌ

喧奴新治乃鳥羽能淡海毛秋風爾白浪立奴

ツクハ子ノヨケク ヲ ミレハ ナガキケ ニ オモヒツミコレ ウレヘハ

筑波嶺乃吉久乎見者長氣爾念積來之憂者

ヤミヌ 治イ

息沼 日ロ 槽

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

反歌

ツクハネノスソワノタキニアキタカルイモガリヤラムモミチタヲリテ

筑波嶺乃須蘇廻乃田井爾秋田苅妹許將遣

黄葉手折奈

師說ヲタガキト同ジ（王笥ニ集ノ兒ト在男女互ニ唱和ノホトヽギス同ジ）

登筑波嶺爲嬥歌會日作歌一首并短歌

ワレヲカツクハノヤマノモトヒトヅマニ

鷲住筑波乃山之裳羽服津乃其津乃上爾廬

テヲトメヲトコノユキヅドヒカガフ

而未通女壯士之伴集加賀布嬥歌爾他妻爾

ワレモカヨハムツマシレトヒトモコトトヘコノヤマシ

吾毛交牟吾妻爾他毛言問此山乎牛掃神之

ムカシヨリイサメヌワザゾケフノミハメグシレモ

從來不禁行事叙今日耳者目串毛乞見事毛

トカムナ

咎莫

嬥歌者東俗語曰賀我比

反歌

嬥哥者六帖云男女集会歌垣也万葉集中有此辞王笥云徒ノ坊徒歩往来皃左太沖蜀都賦云朋儕嬥戲云々常陸風土記曰俗語謂祖神之社曰坂神筑波岳坐神之会歌垣也

男神爾雲立登斯具禮零沾通友吾將反哉

ワクノ山ヘ岩則神ト云

右件歌者高橋連蟲麻呂歌集中出

曲男女共録之

詠鳴鹿歌一首并短歌

シカノコヱヒヾキテナクモ

三諸之神邊山爾立向三垣乃山爾秋芽子乎

ツママカムアサヅクヨアケニケラシモ

妻卷六跡朝月夜明卷鷲視足日木乃山響令

コメヨビタテテナクモ

動喚立鳴毛

八雲ニカミノ山トヨマセメマヘリ如何

卷七水不流心ニ

反歌

一夜ヘメテヤルル　アスノ　ヨニアハガラメ　ヤモ　アヒビキノ　ヤマビコトヨム　ヨビ
明日之夕不相有八方足日木之山彦令動呼
タナ　ナクモ
立哭毛

右件歌或云柿本朝臣人麻呂作

沙彌女王歌一首

クラハシノ　ヤマヲ　メカミカ　ヨ　ゴモリニ　イテクルツキノ　カタマチカタキ
倉橋之山乎高歟夜隠爾出来月之片待難
乃　光　已上三

右一首閒人宿禰大浦歌中既見但末一句

相換亦作歌兩主不敢正指因以累載

七夕歌一首　并短歌

ヒサカタノ　アマノカハラニ　カミツセ　ニ　タチハ
久堅乃天漢爾上瀬爾珠橋渡之下瀬爾
シモツセ　タテリセ　ニ　フネウケ
船浮

スエヲアマメフリテ　カセフカス　ドモ　カセフキテ　アメフラス　ドモ
居雨零而風不吹登毛風吹而雨不落等物裳
ヌラサズ　ヤマテズ　キミニアヒタテマツラム
不令濕不息来益常玉橋渡須

反歌

アマノカハキリタチワタル　フケユケバ　ワカマツキミガ　フナデスラシモ
天漢霧立渡且今日且今日吾待君之船出為良霜

右件歌或云中衛大將藤原北卿宅作也
（房前）（麻呂）

作者未詳　水戸

続古秘上
北野贈太政大臣（後人誤テカルヤ智
左注ノ北卿ノミアヤマリケルヤ

備中下道郡釼
和名釼トスルハ誤
乎又釼トアヤマル乎

豊前国風土記云昔
新羅神皇来住此
川原号名曰香春神
続日本後記云承
和四年十二月庚子
太宰府管豊前国田
河郡香春峯神

○相聞

振田向宿禰退(ニ)筑紫國(ヲ)時歌一首

吾妹兒者(ハ)久志呂爾有奈武左手乃吾奥手爾
纏而去麻師乎

紀氏六帖ニハクレト心得テ擲ノ哥トセリ誤ヘクレロハヒゲマキ〳〵和名ニモ(ノ)ヲ(ノ)ヲ(ノ)農奥部
師云古事紀神功皇后紀釈紀ト云ヒ公望私記ヲ引給ノコトニ今ト別

抜氣大首任(ニ)筑紫(ニ)時娶豊前國(ノ)娘子紗兒(ヲ)作歌三首

豊國乃加波流波吾宅紗兒爾伊都我里座者
葉流波吾家

(紗ハ春ノ誤ナリ)

(伊ハ衍詞ナリ)

新古惑一説　人丸

イノカミフルノワサタノホニハイテス　コヒロノウチニコフルコロ

上振乃早田乃穂爾波不出心中爾戀流比日

カクノミシ助ケモワレハタマキハルノチ如是耳志戀思渡者靈剋命毛吾波惜雲奈師

大神大夫任(ニ)長門守時集(ヘテ)三輪河(ノ)邊(ニ)宴歌二首

(高市岳ニ大物主神ノ命子大田ト根子ノ爾ト奏祭神紀ニ三タリ)

(大宝三年春正月)

三諸乃神能於婆勢流泊瀬河水尾之不斷者

(三輪山ハ山則神体ニハカクゾ云リ)

吾忘禮米也

(ハハコヒヤノ心ナビクヤニヲ)

於久禮居而吾波也將戀春霞多奈妣久山乎

続古別　人丸

是ハマヽ餞ル人ノ哥ヽ彼ニ人丸ノ哥トスルハイカヽ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

君之越去者（キミガコエイナハ）　右二首古集中出（ユカ阿　哥乎）

大神大夫任（オホミワノオホキミ）統紫國時（スメクニトキ）阿倍大夫作歌一首

於久禮居而（オクレヰテ）吾者哉將戀（ワレハヤコヒム）稻見野乃秋芽子見（イナミノノアキハギ）

都津去奈武子故爾（ツツイナムコユヘニ）獻弓削皇子（メサユミノミコ）歌一首

神南備神依板爾（カムナビカミヨリイタニ）爲杉乃（スルスギノ）念母不過（オモヒモスギス）戀之茂爾（コヒノシゲキニ）

（戰國策曰唐侯謂昭王曰亦聞恒思有神靈乎有神之墨子建國必擇水之清枝者以爲舍位史舍祠索隱云高誘註云神祠蓑樹今高注本缺）

（恒思有浮少年請与蓑博爲戲也大曰吾勝蓑し藉吾神三日借我神靈不勝蓑し因取乃左手之爪蓑投右手之（思に過サヒ思ヘトモ思に過サ」ヌトヘ枝ヲ）

（久ヒサ戀ノ心ヨメリ）獻舍人（メシウドネリ）皇子（ミコ）歌二首（ふたつ）

（枝ハ三輪ノ神木ニテ又枝ニモスルハ如此イヘリ）

（父ニテモ母ニテモ尊テノ云リヤ）

垂乳根乃母之命乃言爾有者（タラチネノハヽノミコトノカシコミアラハ）年緒長憑過武（トレノヲナカクタノミスキム）

（宮仕侍様ヤト望ム人ノ舍人ニ敎王ヲタメノミテ過ヒカヨメルニヤ）

泊瀨河夕渡來而我妹兒何家門近春二家里（ハツセカハユフワタリキテワキモコカイヘノミカトチカツキニケリ）

（此皇子ノ忘薨ニアタルヲキテ近ク比セリ）

右三首柿本朝臣人麻呂之歌集出

石河大夫遷任上京時播磨娘子贈歌二首（ミヤコ　磨仲）

絶等寸笶山之（タユラキノヤマノ）櫻花（ヘノサクラハナ）將開春部者（ハルヘハ）君乎（キミヲ）將思（オモハム）

（人ヲ思ニ擬テ　笶ハ麓ニ忘押ノトヨム）

君無者（キミナクハ）奈何身將裝餝（ナゾミカザラム）匣有黃楊之小梳毛將（クシゲナルツゲノヲクシモトラ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ムトモモハス
取跡毛不念（都家ニナレ恐行末之事）
藤井連遷任上京時娘子贈歌一首
フヂ（菅井連廣成ナリ）ナナ　ホリヤニイハフミナラシ　キミ
従明日者吾波孤悲牟（雲ニナヨ山或ナラム播ニテトシ王ニ又ナホリ山近江トモ任シ王ヘリ越ニ近江トアルハ何レ国共知ラズ）
アスヨリ　ハワレハ　コヒム　ナ
我越去者　（集豊後国ニ直入アリ是ナリ）
カ　コエイナハ
命乎志麻勢久可願名欲山石踐平之復亦毛来武（近仙宮ニ安積ナマセトヨメリ長屋カマサキクトニ伯ヲ客シ名ベトイルモ通セリ）
サキクモガモ　ナ　ホリヤニイシフミナラシ　ニタテタモ
鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌

二首共ニ情アリ哥

珠洲牛の宮養トモ云義ニマガヒノガヒノ紛ケシサテ宮飼ハ左右の馬寮なるべし

師ヲ五時ナリシトハニカナトヨメリトハニハトヘテハトヨミ通スベシ

六時時々春ノケナトハアトフトモ又ヰ十ヰ五十ニハアトヨムナリ

牡
コトヒウシノ　ニ　ヤケノ　サケニ　サシムカフカ　シニノ　サキニ　サニ　ヌリ
牡牛乃三宅之酒爾指向鹿島之崎爾挟丹塗（牡牛ハ三宅ノ序ニ三宅ハ酒ノ序ニ酒ニサシ向ハ鹿嶋カカレテシキト上ヨリ受テ何レモ序ナリ）
ノ　フチ　ニウケテ　タチニ　ヌキユフシホノ　ミチノ　（酒ヲ塩ノミテタテ心ヲ入ル）
之小船儲玉纏之小楫繁貫夕塩之滿乃登等（雄牛ハ酒ヲ好ミ多ク飲ハ身ヲ亡ス事ヲ云牛ハ乃ヨコヨシテイトヌコノ牛酒ヲ好ミ多ク飲ハ身ヲ亡ス事ヲ云牛ハ乃ヨコヨシ牛ノ身焼ノ酒トハ設ケシ子ノミヤノヤウル様ニイヒツキスルヲヨリテミヤケノ酒トハ云ヘリ雄牛ハ酒ノムコトキニコソ牝牛トハ云ヘ）
ヒ　タテ、ヨビタテ、ミ　フネイレナ
美爾三船子呼阿騰母比立而喚立而三船出
ハハニモ　セニ　オクレナ　ヲリテコロビコヒカモ　シラム　アヒズリ
者濱毛勢爾後悲居而反側戀香裳將居足垂（今案ニヤ子ハ処ノ名ニ鹿嶋ノ郡ニ名ヲ和名ニ鹿嶋郡ノ下ニ注ヲ引ル処ノ名ヲ子ハ名ニ鹿嶋郡ノ郡ニ名ヲ引ル処ノ名ヲ子和

ムトモモハス　二首共ニ情アル詩哥

取跡毛不念（都鄙ニナレ恐怖ヲ一況思ハズ）

藤井連遷任上京時娘子贈歌一首

フヂヰノムラジ（葛井連廣成ナル）

藤井連遷任上京時娘子贈歌一首

アスヨリハワレハコヒムナ　ホリヤマイハフミナラシ　キミ

從明日者吾波孤悲牟　（公雲ニテヨシ或ナヲ山播テトレ玉ニ又ナホリ山近仕トモ注レ玉ヘリ題ニ近仕トアレバ何レ国共知ラネド都ニ集豊後国ニ植入アリ是ナルベシ）

カコエイナハ

我越去者

藤井連和歌一首

カヘシノ

藤井連和歌一首

イノチヲシ　ナ　ホリヤマイハフミナラシ　キミ

命乎志麻勢久可願（一云山乎越去牟）

ヤマヲコエユカム

名欲山石踐平之復亦毛

（毛禮ノ字ハ所勘ナレバカモトモ可讀）

ニタビタモ

來武

（上廿三ニ筑波山ノ事アリシカバ高国ノ擬称ニ非ズテ信濃ノ国海上郡ノ事ヲサテ四ツ名ノ特別ナル山ヲ云ヒシナルベシ）

コム

鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌

カムノ　ヲ

珠名牛の宮養ト云義ミマカヒノ紛ケシサテ宮飼ハ左右の馬寮なるべくや

師ノ五ニ時ノ守リシトハミカヅキトヨメリトミニ三ハトヾマルニヨトミニ通ズ

六時ハ晝ノ夜トヲトハアトフトモ又ヲ十ノ五ナトミハアト思フハ

牡

コトヒウシノ　ミ　ヤケノ　サケニ　サシムカフカ　シマノ　サキニ　サニ　ヌリ

牡牛乃三宅之酒爾指向鹿島之崎爾挾丹塗（男牛）

ノ　フチニウケテ　タヽニキノ（酒）ヲ　カザシテ　ミチノ　ヌキユフシホノ

之小舩儲玉纏之小楫繁貫夕塩之滿乃登等（ヨコ通ドト塩ノヨリテタヽ心ヨタヽ）

ミニ　フナコヽ　タテ、ヨビタテ、ミ　フネイデナ

美爾三舩子呼阿騰母比立而喚立而三舩出

ハヽニモ　七ニ　オクレナ　ヲリテコ

者濱毛勢爾後楽（助）居而反側戀香裳將居足垂（一云ハツ）

（祝アレ　年来経牛ハ三宅ノ厚ク酒ノ厚ク酒ニサシ白ヘ鹿嶋ヲカレマシキト上ヨリ受テ何レモ厚トモ酒モリノ席ヤカヽレシ物ヽサテ牛ニ酒ノ縁アルヲハ雄牛ハ酒ノムコトキヽコヽニ牝牛トツムハ誤ナルヘシ又一云牛ハツヽコヽ苦ムト物ナハ酒ヲツヒテ身イヤクル様ニイヒツキスクヨリテミヤケノ酒トヽホ叔母ナルベシ）

ノミヤ　ナカム　ウナガミノ（下総郡名）　ソツノ　サムテ　キミガ　コギ

之泣耳八將哭海上之其津於指而君之已藝

（今案ニヤケハ処ノ名ニ鹿嶋郡ニ宅アリサル名ニ牛ヲ引テ酒ヲ喜集ニ内ノウラトヨメリ又サケヤキ牛ノ角ノ上ニ酒ヲ入テ飲ム事アリ）

ウミツ助ノ　ナギナム　トキモ　ワタラヒ　ムカクタツ　ナミ

海津路乃名木名六時毛渡七六加九多都波

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

二船出可爲八（フナデ ヌ スベシヤ）

右二首高橋連蟲麻呂之歌集中出

與妻歌一首

雪已曾波春日消良米心佐閉消失多列夜言（ユキコソハ ハルヒキユラメ コヽロサヘ キエウセ放レヤコト）

母不往來（モカヨハヌ）

妻和歌一首（ツマ ノ）

松反四臂而有八羽三栗中上不来麻呂等言（マツガヘリシ 誤ヒニテ 助アレヤバ ミツグリノナカニ井コヌ マロトイハ）

八子（ヤコ）

右二首柿本朝臣人麿之歌集中出

丹比真人入唐ノ時ナルヘシ

贈入唐使歌（ニ）一首ノ二字目錄ニリ

海若之何神乎齊祈者興往方毛來方毛船之（ワタツミノ イツレノカミヲ タムケバカ ユクサモクサモ フネノ）

早兼（ハヤケム）

右一首渡海年紀未詳

是ハ越前國ノ中ナルヘシ　友使ノ国守ニ任セラテ行時京ニ留ル人ノ別ル時ヨミテヲクレル哥ヘ

神龜五年戊辰秋八月歌一首并短歌

人跡成事者難乎和久良婆爾成吾身者死毛生毛君之隨意常念乍有之間爾虛蟬乃代人（ヒト ナルコトハ カタキヲ ワクラバニ ナレルワカミハ シニモイキモ キミガマヽニト オモヒツヽ アリシアヒダニ ウツセミノ ヨノヒト）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

越中越前越後ヲ又ハ例ノ付字ニテ只コシヘ

ナレハ　オホキミノ　ニ　コトカシコミ　アマサカル　ヒナヲサメニ　ト　アサトリノ
有者大王之御命恐美天離夷治爾登朝鳥之
アサタチシ　ツヽ、ムラトリノ　ムラダチユケハ　トミリ井　テ　ワレハ　コヒム
朝立爲營羣鳥之群立行者留居而吾者將戀
ナ　ミ　デ　ヒサニアラハ　ヒサナアハ
奈不見久有者

反歌

ミコヂノ　ユキフルヤマヲ　コエムヒ　ト　ハ　トマレトモヒヲ　カケテ
三越道之雪零山乎將越日者留有吾孰懸而
シノバセ
小竹葉背

八月廿日ナハテ雪フルニアラス

磯城嶋　詞林采葉ニ崇神天皇三年九月乙都次磯城是ヲ指ニ瑞籬宮トイヘハ誤リ
欽明紀云ク冬十月丙子朔己丑遷ニ都ヲ和国磯城郡磯城嶋仍テ号ク磯城嶋金刺宮
是ヨリ先キ嶋ノ大和トニテナ師ヲ集中シ名ナレヘキ乎ニキハ賦ノ字ラレケ又ハクルルナトヨメルト同意也
已中

天平元年己巳冬十二月歌一首并短歌

ウツセミノ　ヨノヒト　ナレハ　オホキミノ　ミ　コトカシコミ　ヤ　モノ
虚蟬乃世人有者大王之御命恐彌磯城島能

ヤマトノクニノ　イソノカミフルサトニ　ヒモトカス　マロチ　ヲ　スレハ　ワガ
日本國乃石上振里爾紐不解丸寐乎爲者吾
キタルコロモハ　ナレ　ヌ　ミルコトニコヒハ　マサレドイロニヤ　ニヤ　タ
衣有服者奈禮奴見戀者雖益色二山上復
アルヤマハ　ヒト　ニ　フコノヨ　ノ　アカレモ　エヌ　ヲ　イモ
有山者一可知美冬夜之明毛不得呼五十母
タヘカニ　ワレハソ　コフル　イモガ　タ
不宿二吾齒曽戀流妹之直香仁

ニアリテ都ヲフルヘ

反歌

フルヤマユ　タヾニミ　ワタス　ミヤコニ　ゾ　イモ　ト　ホカラナクニ
振山從直見渡京二曽寐不宿戀流遠不有爾
ワキモコガ　コヒテ　シ　ヒモヲ　トカメヤモ　タエトモ
吾妹兒之結手師紐乎將解八方絶者絶十方
タヽニアフマテニ
直二相左右二

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

右件五首笠朝臣金村之歌集中出

天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時親母贈子歌一首并短歌

秋芽子乎妻問鹿許曽一子二子持有跡五十戸鹿兒自物吾獨子之草枕客二師徃者竹珠乎密貫垂齋戸爾木綿取四手而忌日管吾思吾子眞好去有欲得奴者多本奴去古本

反歌

客人之宿將爲野爾霜降者吾子羽裏天乃鶴群

思娘子作歌一首并短歌

白玉之人乃其名矣中々二辭緒不延不遇日數多成者戀時無口不息吾戀兒乃安伎許呂尓鏡直目爾不視者下檜山下逝水乃上丹不出吾念情安虛歎毛

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

右件五首笠朝臣金村之歌。中出

天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時

親母贈子歌一首并短歌

秋芽子乎妻問鹿許曽一子二子持有跡五十戸鹿兒自物吾獨子之草枕客二師徃者竹珠乎密貫垂齋戸爾木綿取四手而忌日管吾思吾子眞好去有欲得

奴者多本奴去古本

反歌

客人之宿將爲野爾霜降者吾子羽裏天乃鶴群

思娘子作歌一首并短歌

白玉之人乃其名矣中々二辭緒不延不遇日之數多過者戀日之累行者思遣田時乎白土肝向心摧而珠手次不懸時無口不息吾戀兒矣玉釧手爾取持而眞十鏡直目爾不視者下檜山下逝水乃上丹不出吾念情安虛歎毛

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

反歌

垣保成人之横辭繁香裳不遭日數多月乃經（ヨコゴトシゲキカモ　ヌハヒアヘタツキノヘヌラム　遇中或）

良武

立易月重而雖不遇核不所忘面影思天（タチカハルツキカサナリテアハサレド　サ子ワスラレズオモカゲニシテ）

右三首田邊福麻呂之歌集出

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首（若郎子ノ宮処アリト三ツ又ハ十ニ郡ニ亙ルカ　作手）

妹等許今木乃嶺茂立嬬待木者古人見祁牟（イモラガリイマキノミネニシゲタツアヲマツノキハフルヒトミケム　若郎子ラカ）

紀伊國作歌四首

黄葉之過去子等携遊礒麻見者悲裳（モミヂハノスキユクコラトタヅサヒテアソビシイソヲミレバカナシモ）

塩氣立荒礒毛者在往水之過去妹之方見（シホケタツアライソニハアレドユクミヅノスギユキニシイモカカタミ）

等曾来

古家丹妹等吾見黒玉之夕漏牛方乎見佐府（イニシヘニイモトワカミシヌバタマノヨワタルウシガタヲミレバサブシ）

下

玉津島礒之裏末之真名。仁文爾保比去名妹（タマツシマイソノウラワノマナゴニモヒテユカナイモニフミホヒテユカナ）

觸險

右五首柿本朝臣人麻呂之歌集出

過足柄坂見死人作歌一首

小垣内之麻矣引干妹名根之作服異六白細
乃紕緒毛不解一重結帶矣三重結誉侍伎爾
仕奉而今谷裳國爾退而父母
跡恩乍往祁牟君者烏鳴東國能恐耶神之三
坂爾和霊乃服寒等丹烏玉乃髪者亂而郡問
跡國矣毛不告家問跡家矣毛不云益荒夫乃
去能進爾此間偃有

過葦屋處女墓時作歌一首并短歌

古之益荒丁子各競妻問爲祁牟葦屋乃菟原
乎処女乃奥城矣吾立見者永世乃語爾爲乞
後人偲爾世武等玉桙乃道邊近磐構作家矣
天雲乃退部乃限此道矣去人毎行因射立嘆
日戸惑人者啼爾毛哭乍語嗣偲繼来處女等賀
奥城所吾并見者悲裳古思者

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

反歌

イニシヘノ　サツマノコ　ノツマドヒシ
古乃小竹田丁子乃妻問石者會處女乃奥城
ゾ叙イコレ　サタシタ〳〵和泉ノ信太郡ニスム人ナルヘシ

叙此

カタリツグカラニ　モコヽタ　コヒシキヲ
語繼可良仁文幾許憲布矣直目爾見兼古丁子
カナシミテ　イニシヘノ
哀弟死去作歌一首　并短歌

ハレムカフナトセノ　ミヨトハ　アサツユノ　ケヤス
父母賀成乃任爾著向弟乃命者朝露乃銷易
チヽハヽガ　ウマレマシバ　ナレムカフナトセノ　ミヨトハ　アサツユノ　ケヤス
キ　イノチカ　神ノ寿ノ長遠ノ　神ノ寿トアラウニカナニ　カ子　テ　アレハラノ　ミツホ　ノ　クニニ
杵壽神之共荒競不勝而葦原乃水穂之國爾
イヘ　ナレヤ　タカヘリコ　ヌ。トホソ　クニヨ　ミ　ノ　サカヒニ　ハフツタ
家無哉又還不來遠津國黄泉乃界丹。蔓都多

ノ　キノガ　ムキムキアニグモノ　ワカレシ動ユルケバ　ヤミヨ　ナス　オモヒヽ　トパ
乃各各向向天雲乃別石往者闇夜成思迷匍
ヒレ　ハヒホフ
匐所射十六乃意矣痛葦垣之思亂而春鳥能
ナキヽ　ナキツヽアヂサハフ　ヨルヒルイハズ　カケロフ　ノ　コヽロ　モエ
啼耳鳴乍味澤相宵晝不云蜻蛉火之心所燎
ツヽ　ナゲク　ワカレシ
管悲懐別焉

反歌

ワカレテモ　アフベクオモホヘバ　コヽロミダレテクルコヒメ　ヤモ
別而嘗復毛可遭所念者心亂吾戀目八方

一云意盡而

アレビ　キノ　アラヤヽナカニ　オクリ対キテ　カヘラフ　ミレハ　コヽロケル
蘆檜木笑荒山中爾送置而還良布見者情苦

神代紀次所生児竹取物語十廿又子ニハ　ナホムノ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

裳

右七首田邊福麿之歌集出

詠勝鹿真間娘子歌一首 并 短歌

鶏鳴吾妻乃國爾有家留事登至今不
絶言来勝牡鹿乃眞間乃手兒奈我麻衣爾青
袴著直佐麻乎裳者織服而髪谷母掻者不梳
裹乎谷不着雖行錦綾之中丹裹有齊兒毛妹
爾将及哉望月之滿有面輪二如花咲而立有

者夏蟲乃入火之如水門入爾船已具如久歸
香具禮人乃言時幾時毛不生物乎何爲跡歟
身乎田名知而浪音乃驟湊之奥津城爾妹之
即勢流遠代爾有家類事乎昨日霜将見我其
登毛所念可聞

反歌

勝牡鹿之眞間之井見者立平之水挹家牟手
兒名之所念者立平之水挹家牟手

見荒原處女墓歌一首　并短歌

葦屋之菟名負處女之八年兒之片生乃時從
小放爾髮多久麻庭爾並居家爾毛不所見虛
木綿乃牟而座在者見而師香跡悒憤時之垣
成人之跳時智奴壯士乃盧八
妻後有荒原壯士伊仰天叫於良妣踴他牙喫
取佩冬蚊蝿鄙良尋去祁禮婆親族共射歸集
建怒而如巳男爾負而者不有跡懸佩之小劔
永代爾携將爲跡遊代爾語將繼常處女墓中
爾造置壯士墓此方彼方二造置有故縁聞而

見荒原處女墓歌一首　并短歌

葦屋之菟名負處女之八年兒之片生乃時從小放爾髮多久麻庭爾並居家爾毛不所見處女乃綿乃牟而座在者見而師香跡悒憤時之垣頭押禰利白檀弓勢取負而入水火爾毛將入跡立向競時爾吾妹子之母爾語久倭文手纏

賤吾之故大夫之荒爭見者雖生應合有哉完串呂黄泉爾將待跡隱沼乃下延置而打嘆妹之去者血沼壯士其夜夢見取次寸追去祁禮婆後有葦原壯士伊仰天叫於良妣蹤他牙喫建怒而如巳男爾負而者不有跡懸佩之小劔取佩冬蚊蝿都良尋去祁禮婆親族共射歸集永代爾揾將爲跡遐代爾語將繼常處女墓中爾造置壯士墓此方彼方二造置有故縁聞而

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

857
47

雖不知新裳之如毛哭泣鶴鴨
（新喪）

反歌

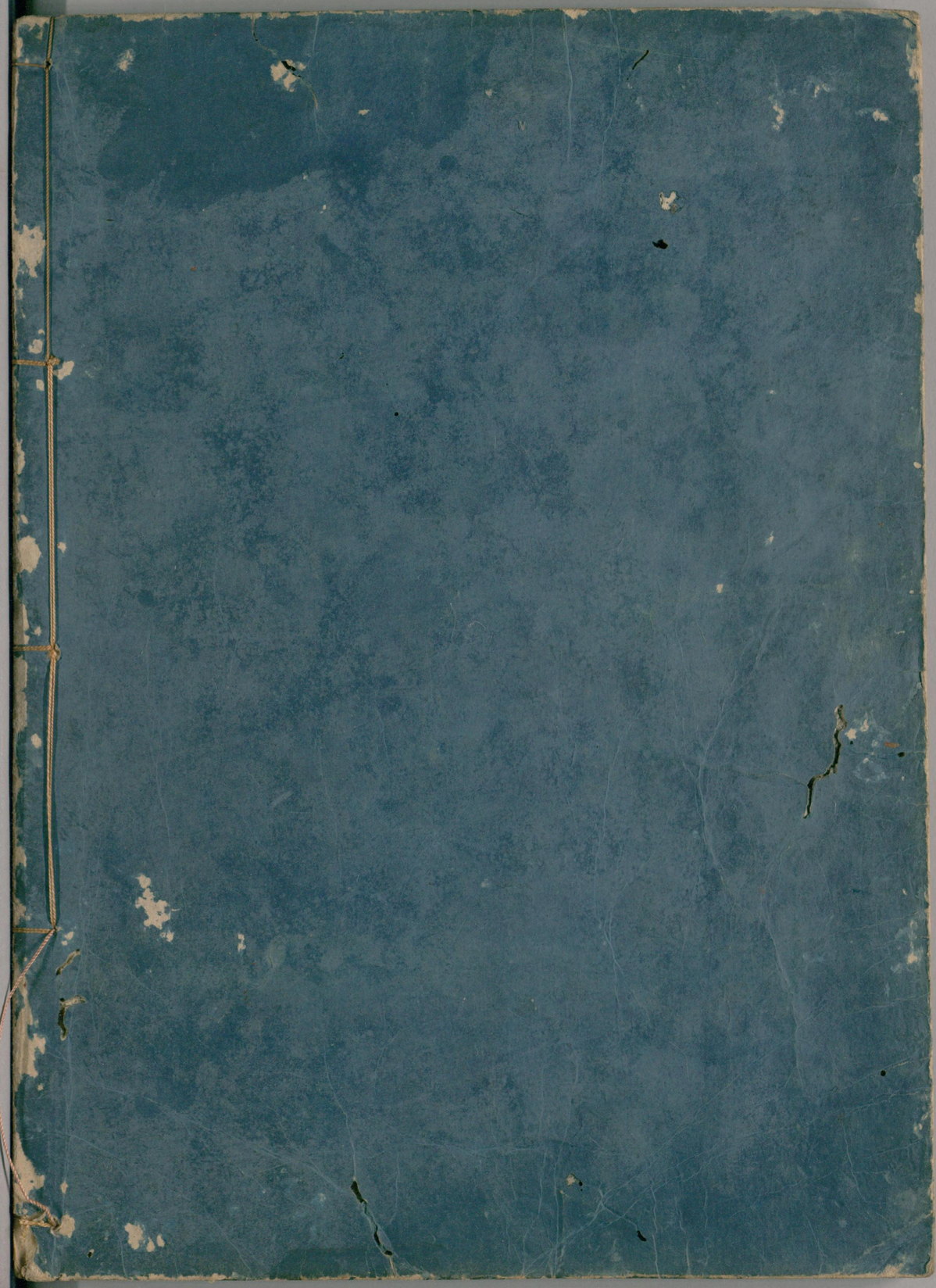
葦屋之宇奈比處女之奥槨乎徃來跡見者哭
耳之所泣
（一云男共寢ユメミテトコミメハ彼女ハケヌカ方ニナヒキタリトミユ）

墓上之木枝靡有如聞陳努壯士爾之依倍家良信母
（一云九ツケラクニカサニケラクオヒテナヒケラクヲトメカ後ニヒトツケラクオヒカハリオヒテナヒキケラレモ）

右五首高橋連蟲麻呂之歌集中出

萬葉集卷第九

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用